

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年8月10日

【四半期会計期間】 第77期第1四半期(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社N F Kホールディングス

【英訳名】 NFK HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 関口 陽介

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045(575)8000(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 古池 政巳

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045(575)8000(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 古池 政巳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第77期 第1四半期 連結累計期間	第76期
	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	419,384	404,798	2,369,203
経常損失 () (千円)	67,122	43,656	2,070
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 () (千円)	69,026	45,593	2,347
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	71,030	47,362	12,079
純資産額 (千円)	2,619,775	2,655,523	2,702,885
総資産額 (千円)	3,705,614	3,700,289	3,772,272
1株当たり 四半期(当期)純損失金額 () (円)	2.25	1.48	0.08
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	70.7	71.8	71.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結累計期間における主要な関係会社の異動につきましては、以下のとおりであります。

平成30年4月1日付にて日本ファーンズ株式会社を存続会社、株式会社ファーンズE Sを消滅会社とする子会社間の合併を実施しています。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に企業収益や雇用・所得環境の改善が継続し、個人消費についても持ち直しの動きが見られるなど景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。その一方で、米国に端を発する通商問題の影響や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動など、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは平成29年4月にスタートさせた「19中期経営計画」に基づき、「収益・成長性の追求」、「新事業・新製品の創出」、「グローバル展開の加速」の3つの経営基本方針を掲げて全社を挙げて取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高4億4百万円（前年同四半期比3.5%減）、営業損失4千6百万円（前年同四半期は営業損失7千4百万円）、経常損失4千3百万円（前年同四半期は経常損失6千7百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失4千5百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失6千9百万円）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

(a) 工業炉燃焼装置関連

工業炉燃焼装置関連事業につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は4億4百万円（前年同四半期比3.5%減）となりました。また、利益面におきましては、営業損失6千1百万円（前年同四半期は営業損失9千3百万円）となりました。

(b) その他

その他の事業につきましては、各子会社からの配当収入、不動産賃貸収入、経営指導料等が収益の中心となっております。当第1四半期連結累計期間につきましては、子会社間の合併により株式会社ファーンセスからの不動産賃貸収入及び経営指導料が減少したことなどから売上高6千8百万円（前年同四半期比6.6%減）、営業利益は6千2百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて1.9%減少し、37億円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて2.8%減少し、24億9千3百万円となりました。主な内訳としては現金及び預金が8千9百万円の減少となったこと、受取手形及び売掛金が2千5百万円減少したこと、仕掛品が4千8百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0.1%増加し、12億6百万円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて2.3%減少し、10億4千4百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3.7%減少し、6億5千9百万円となりました。主な内訳としては支払手形及び買掛金が5千9百万円減少したこと、短期借入金が1千9百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて0.3%増加し、3億8千4百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.8%減少し、26億5千5百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失4千5百万円を計上したことなどによります。

(2) 事業場及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は886千円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	118,610,000
計	118,610,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,713,342	30,713,342	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	30,713,342	30,713,342		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日	-	30,713,342	-	2,131,532	-	40,280

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,710,000	307,100	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,942		
発行済株式総数	30,713,342		
総株主の議決権		307,100	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社N F Kホールディングス	神奈川県横浜市鶴見区尻手 2丁目1番53号	400		400	0.00
計		400		400	0.00

(注) 上記以外に自己名義所有の単元未満株式19株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人元和による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,295,982	1,206,815
受取手形及び売掛金	1, 2 803,488	2 778,065
仕掛品	91,958	140,129
原材料	190,919	190,214
その他	183,611	178,101
流動資産合計	2,565,960	2,493,326
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	75,674	74,596
機械装置及び運搬具（純額）	40,074	38,477
土地	703,022	703,022
その他（純額）	5,282	5,196
有形固定資産合計	824,053	821,292
無形固定資産		
ソフトウェア	5,128	5,578
無形固定資産合計	5,128	5,578
投資その他の資産		
投資有価証券	347,386	347,368
長期貸付金	5,372	5,327
破産更生債権等	27,650	27,500
その他	59,258	62,282
貸倒引当金	62,537	62,387
投資その他の資産合計	377,130	380,091
固定資産合計	1,206,312	1,206,962
資産合計	3,772,272	3,700,289

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	355,544	296,156
短期借入金	19,600	38,800
未払法人税等	11,254	3,213
賞与引当金	36,047	23,264
完成工事補償引当金	59,935	52,501
その他	203,066	245,888
流動負債合計	685,448	659,825
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	196,601	196,601
退職給付に係る負債	178,102	176,040
その他	9,235	12,299
固定負債合計	383,938	384,941
負債合計	1,069,386	1,044,766
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,532	2,131,532
資本剰余金	40,280	40,280
利益剰余金	65,503	19,910
自己株式	210	210
株主資本合計	2,237,105	2,191,511
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,263	17,495
土地再評価差額金	446,516	446,516
その他の包括利益累計額合計	465,779	464,011
純資産合計	2,702,885	2,655,523
負債純資産合計	3,772,272	3,700,289

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	419,384	404,798
売上原価	334,393	314,565
売上総利益	84,991	90,232
販売費及び一般管理費	159,286	137,093
営業損失()	74,295	46,861
営業外収益		
受取利息及び配当金	859	1,163
仕入割引	278	257
持分法による投資利益	3,462	1,613
為替差益	2,222	-
貸倒引当金戻入額	150	150
その他	251	223
営業外収益合計	7,225	3,407
営業外費用		
支払利息	26	43
為替差損	-	159
その他	26	0
営業外費用合計	52	202
経常損失()	67,122	43,656
税金等調整前四半期純損失()	67,122	43,656
法人税、住民税及び事業税	1,904	1,936
法人税等合計	1,904	1,936
四半期純損失()	69,026	45,593
親会社株主に帰属する四半期純損失()	69,026	45,593

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失()	69,026	45,593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,976	1,768
繰延ヘッジ損益	27	-
その他の包括利益合計	2,003	1,768
四半期包括利益	71,030	47,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	71,030	47,362
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、日本ファーンズ株式会社を存続会社、株式会社ファーンズE Sを消滅会社とする子会社間の合併を実施したため、連結子会社が1社減少しています。

(追加情報)

「税効果会計に係る会計基準の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計年度 (平成30年6月30日)
受取手形割引高	50,725千円	千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計年度 (平成30年6月30日)
受取手形	4,209 千円	27,021千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	4,819千円	4,419千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	工業炉燃焼装置 関連	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	418,934	450	419,384		419,384
セグメント間の内部売上高 又は振替高		72,399	72,399	72,399	
計	418,934	72,849	491,784	72,399	419,384
セグメント利益又は損失()	93,197	66,792	26,405	47,889	74,295

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 47,889千円には、セグメント間取引消去 99千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 47,790千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	工業炉燃焼装置 関連	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	404,348	450	404,798		404,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高		67,599	67,599	67,599	
計	404,348	68,049	472,397	67,599	404,798
セグメント利益又は損失()	61,787	62,131	343	47,204	46,861

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 47,204千円には、セグメント間取引消去 99千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 47,104千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(企業結合等関係)
共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業

名 称： 日本ファーンエス株式会社（当社の連結子会社）

事業の内容： 工業炉燃焼装置関連

被結合企業

名 称： 株式会社ファーンエス E S（当社の連結子会社）

事業の内容： 工業炉燃焼装置関連

(2) 企業結合日

平成30年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

日本ファーンエス株式会社を存続会社、株式会社ファーンエス E Sを消滅会社とする吸収合併。

(4) 結合後企業の名称

日本ファーンエス株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

類似事業を営む連結子会社間の合併により、効率的な組織体制の構築を図るものであります。

また、当社の100%子会社同士の合併であるため、合併による株式または金銭等の割当てはありません。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	2円25銭	1円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	69,026	45,593
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	69,026	45,593
普通株式の期中平均株式数(株)	30,712,926	30,712,923

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

1. 重要な訴訟事件等

当社の連結子会社である日本ファーンズ株式会社が、平成27年3月11日付で東京地方裁判所において、宇部興産機械株式会社より、訴訟の提起を受けております。

訴訟の提起があった年月日

平成27年3月11日(訴状送達日 平成27年3月27日)

訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名

会社名：宇部興産機械株式会社

所在地：山口県宇部市大字小串字沖野山1980番地

代表者：代表取締役 久次 幸夫

訴訟の原因及び提起に至った経緯

当社の連結子会社である日本ファーンズ株式会社が、平成25年に宇部興産機械株式会社(以下、「原告」という。)に依頼した製作請負契約に関し発生した請負代金について、原告からの請求額と当該製作請負契約に基づき支払を要する額との間に大きな隔たりがあったことなどから、これまで話し合いによる解決を模索して参りましたが合意に至らず、今回、本件訴訟が提起されるに至ったものです。

訴訟の内容及び損害賠償請求金額

訴訟の内容：請負代金請求

請求金額：3億6909万746円

今後の見通し

当社といたしましては、原告の請求金額については到底全額につき認められるものではなく、現在、本件訴訟において、当社の考えを適切に主張しております。

なお、本件訴訟が当社の今後の連結業績に与える影響につきましては、現時点では不明です。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8月10日

株式会社N F Kホールディングス
取締役会 御中

監査法人元和

指定社員
業務執行社員 公認会計士 星 山 和 彦 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中 川 俊 介 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社N F Kホールディングスの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社N F Kホールディングス及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。